

第一回 海を学ぼうスクール in 相模大野
～海と日本 PROJECT～

実施報告書

主催： LAB to CLASS プロジェクト

特定非営利活動法人 海の環境教育 NPO bridge

〒108-0073 東京都港区三田 3-2-21 ローランドミュージズ 203

MAIL: info@npo-bridge.org

URL : <http://www.npo-bridge.org>

海洋学習教材サイト URL: <https://lab2c.net/>



実施概要・実施結果

実施概要

- 名称：海を学ぼうスクール in 相模大野 ～海と日本 PROJECT～
- 日程：2019年6月23日（日）
- 時間：＜午前の部＞10：00～12：30 ＜遊びのコーナー＞12：30～13：30
＜午後の部＞ 14：00～17：00
- 場所：ユニコムプラザさがみはら（神奈川県相模原市南区）
- 対象者：＜午前の部＞小学生とその保護者
＜午後の部＞教育にかかわる方，今後かかわりたい方
- 参加費：無料（要事前予約）
- 公式 HP: <https://npo-bridge.org>
- 主催：LAB to CLASS プロジェクト（特非 海の環境教育 NPO bridge）
※本イベントは、海と日本 PROJECT（日本財団）の一環で実施しました
- 協力：北里大学海洋生命科学部，未来教育 confeito，
海辺の環境教育フォーラム，一般社団法人 JEAN
- 後援：相模原市教育委員会，相模原町田経済新聞，
公益社団法人日本環境教育フォーラム，

実施実績

	選択ワークショップ	参加者数
【午前の部】	イルカのふしぎ	小学生 12 名／保護者 12 名（計 24 名）
	サンゴのふしぎ	小学生 21 名／保護者 20 名（計 41 名）
	海のいきもの	小学生 23 名／保護者 21 名（計 44 名）
	【合計】	小学生 56 名 保護者 53 名（合計 109 名）
【遊びのコーナー】	約 100 名（午前の部参加者と重複）	
【午後の部】	教育関係者 18 名	
総合計		127 名

実施スケジュール

◆10:00~12:30 <午前の部> 海の生きもの KIDS ワークショップ

※事前選択制

- もっと知りたい！イルカのふしぎ <ミーティングルーム4>
- もっと知りたい！サンゴのふしぎ <マルチスペースA>
- もっと知りたい！海のいきもの <マルチスペースB>

◆12:30~13:30 海にまつわる遊び&学びのコーナー

※自由参加

<実習室1>

北里大学海洋生命科学部アクアリウムラボの学生さんによる、海の生きものをテーマにした展示や解説コーナー。

◆9:30~17:00 展示コーナー

○LAB to CLASS 教材展示エリア <マルチスペースC>
海洋学習教材 LAB to CLASS の一部を展示。

○海の生きもの写真展示 <マルチスペース入り口>
協力：城ヶ崎インディーズ 矢北拓也氏

◆14:00~17:00 <午後の部>

<マルチスペースA>

○海×先生～「知る」で終わらない教育デザインとは

海の生きもの kids ワークショップ

(A) イルカのふしぎ

ファシリテーター；人見 道夫（ネイチャーガイド 風の道）

参加者：小学生とその保護者 24名

ねらい：イルカ（海洋哺乳類）の生態・身体の構造に詳しくなり、イルカだけでなく海や自然に興味を持つようになること。

概要：最初に海洋学習教材 LAB to CLASS の中から《鳴き声仲間探し》《イルカを知ろう》を実施。途中で野生イルカのライドショー（写真や動画）をはさみ、まずはイルカという“野生生物”に興味を持ってもらったあと、人間と「どこが同じ」で「どこが違う」かを考えました。

次の《実物大のイルカをつくろう！》では、グループ毎にプラスチックシートで作ったイルカの胴体（日本沿岸にいるミナミハンドウイルカの実物大）に、背びれ・尾びれ・胸びれ・眼・噴気孔などを、写真をみながらできるだけ正しい位置に付けるというワークを実施。イルカの身体の構造を学びました。

最後に、《餌の餌の餌は何？》という食物連鎖を学ぶためのカード教材を用いたゲームを行い、「イルカが生きるためには何が必要か」を考え、イルカと多くの海の生きもの、そして私たちの暮らしがどのようにつながっているのかを学びました。



海の生きものの kids ワークショップ

(B) サンゴのふしぎ

ファシリテーター；高橋 麻美（科学コミュニケーター）

参加者：小学生とその保護者 41名

ねらい：海は場所によって異なり、住んでいる生きものも違うということを知る。

実施概要：さまざまな海のスライドを使ってサンゴ礁の多様な環境について興味を誘ったあと、海洋学習教材 LAB to CLASS の中から《海の生きもの椅子取りゲーム》を実施。身体を動かしながら海の生きものへの関心を高めました。

続いて《サンゴ礁パネルシアター》を用いてサンゴの生態や生息環境について学び、また大型《サンゴ礁ジグソーパズル》を全員でつくることにより、楽しみながら“サンゴ礁の全体像”を掴み、描かれている個々の生きものについての知識も高めました。

その後、サンゴ礁の海から関東周辺の身近な海へと視点を変え、大型《干潟のジグソーパズル》をつかって干潟の生きものを紹介。《サンゴ礁ジグソーパズル》の絵と比較することで、生息する生きものの外見や生態の違いについて学びました。

最後には、保護者の方も加わって再度《海の生きもの椅子取りゲーム》を実施。子どもたちに負けないほど楽しんでいた保護者の方々の笑顔が、印象的なプログラムとなりました。



海の生きもの kids ワークショップ

(C) 海の生きもの

ファシリテーター；川端潮音（海の世界教育 NPO bridge）

参加者：小学生とその保護者 44名

ねらい：「食べること」を切り口に“生きもの同士のつながり”を学び、自分（人間）もまた例外ではなく、その環のなかに在ることを知る。

実施概要：海鳥の鳴き声を聞きながら“海辺に棲息する生きもの”への想像を膨らませ、さらに干潟・磯・外洋など異なる環境のスライドを通して、海の多様性を共有しました。そのうえで海洋学習教材 LAB to CLASS の中から《海の生きもの椅子取りゲーム》を行い、海の生きものの特徴や違いについて、体を動かしながら学びました。

特に「何かを食べて生きているか」にフォーカスを当て、スライドを見ながら棘皮動物の口の場所を当てるクイズや、異なる種の「口」の位置や形を見比べることを通し、陸上動物とはまったく異なる海洋生物の特徴を紹介。「なぜ口の形が違うの？」という疑問を徐々に引き出し、生活環境（水面、海底、岩場など）や餌とする生きものとの違いへと意識を導きました。教材《お魚のごはん》カードを使い、数種の生きものをテーマに、グループごとにそれらを食べる生物の口や歯の形を想像し、どのような生物がそれらを食べるのかを自由に描くワークでは、グループ内での盛り上がりも見られました。まとめは、食物連鎖を学ぶ教材《餌の餌は何？》。すべて生物は「食べる-食べられる」のつながりの中にあること、その“命の源は太陽”であること、そして人間もまたそのつながりの中にいることを学びました。



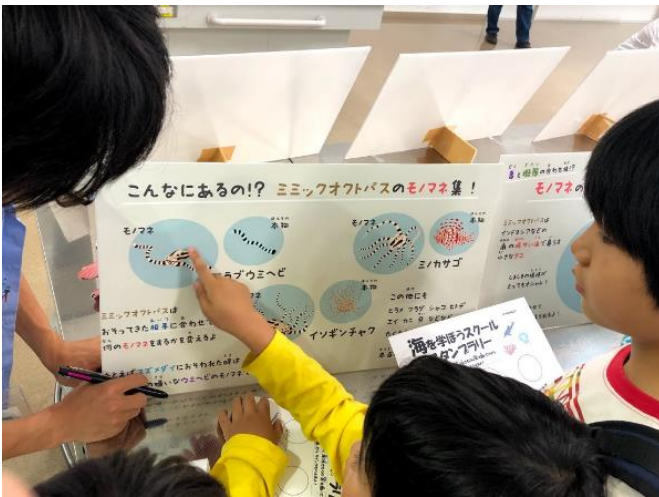
海にまつわる遊び&学びのコーナー

実施者；北里大学海洋生命科学部 アクアリウムラボ所属の学生 9名

参加者：約 100名（午前の部参加者と重複）

ねらい：「深海」「食物連鎖」「捕食方法」など5つの異なるテーマを設定し、パネル・標本・動画などを用いて“海の生きものの不思議な生態”を紹介することで、海洋生物や海の世界への興味を高める。

実施概要：「スタンプラリーカード」を用い、多くの展示を見てもらえるような工夫をしました。参加者は興味を持った展示を自由に回り、クイズに答えたり、解説担当の学生から話を聞いたりしながら、海洋生物の生態や自然界のつながりなどを学びました。



一つのコーナーを回ると担当学生が描く「スタンプラリーカード」の絵が個性的で、参加した子どもたちにも好評でした。

海×先生 ～「知る」で終わらない教育デザインとは～

講師：山藤旅聞（新渡戸文化学園生物教諭・学校デザイナー／一般社団法人 Think the Earth
SDGs for School アドバイザー／未来教育デザイン Confeito 共同設立者）

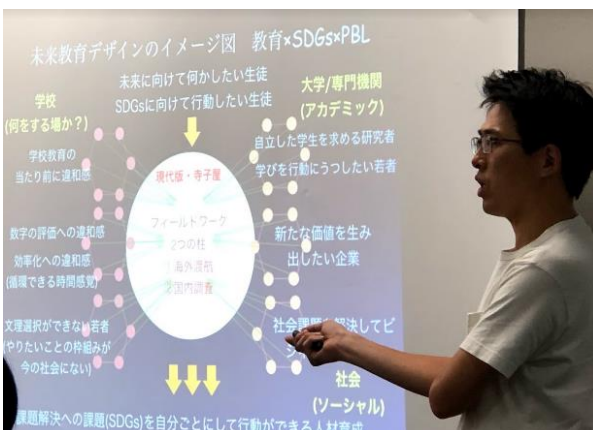
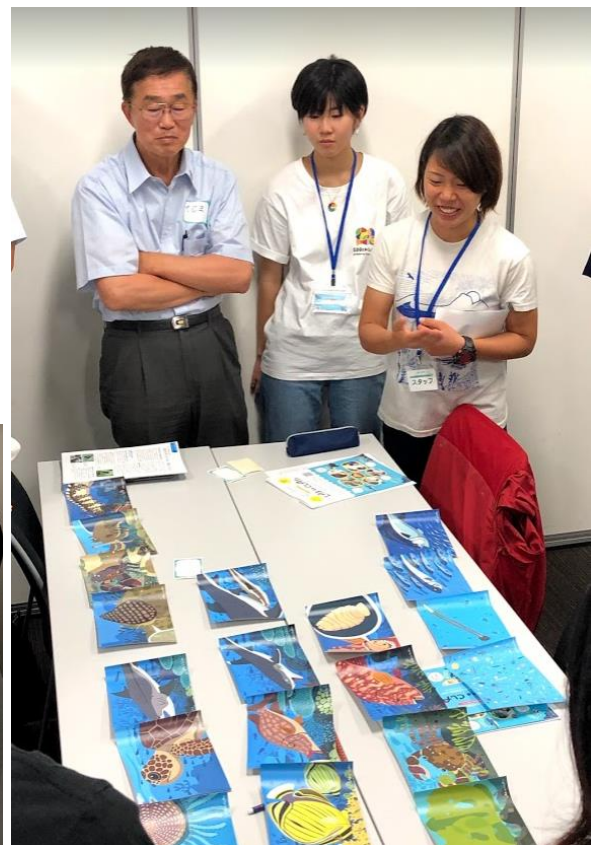
ゲスト講師：東郷結（東京都立の中間一貫校 中学3年生）

進行：川端潮音（海の環境教育 NPO bridge）

参加者：教育関係者（学校教員、民間指導員など）および教育に関心のある方（18名）

実施概要：生徒を巻き込み多数の SDGs 関連プロジェクトを進めている、中高一貫校の理科教諭・山藤旅聞氏をむかえ、海洋教育・環境教育の重要性を題材に“行動につなげる”“個性を活かす”ための教育とはどのようにすれば達成できるのか、その時の“指導者の立ち位置”はどうあるべきか…を、さまざまな事例や手法を紹介していただきながら考えました。なかでもサンゴ礁の実情を描いた映画との出会いがきっかけで、さまざまなプロジェクトを立ち上げ企業を巻き込んで活動をしている中学生・東郷結さんが自身の言葉で語った出会いや行動のきっかけ、その後のリアルな展開の事例が、参加者のへの気づきや今後に向けた意欲を誘発していたように思われました。

これらの事例を踏まえ、「海」に興味を抱くきっかけとして《海洋学習教材 LAB to CLASS》はどのように活用できるか、グループで意見交換を実施。教材活用方法として上がったキーワードは、食育・音楽・物語づくり・想像力向上・お笑い・他者目線など。そして多くの方の意見として共通していたのが「正解探しではなく、考え方の多様性を認められる教材である」ということでした。LAB to CLASS の特徴や強みが明確になり、今後の可能性が見えた時間となりました。



展示コーナー

●LAB to CLASS 教材展示

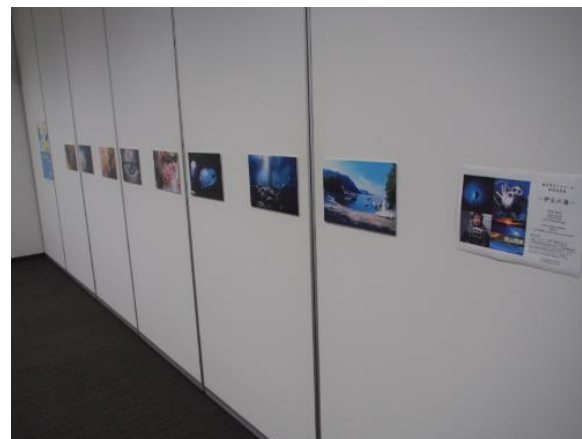
ねらい：WEB サイトから無料ダウンロードができる《海洋学習教材 LAB to CLASS》の各種教材についてより深い興味を持ってもらい、多くの活動場所（教育現場）での活用を推進する。

実施概要：《餌の餌の餌は何？》《海の生きもの椅子取りゲーム》《水てき君の大冒険～森と海のつながり》《実物大のイルカをつくろう！》《サンゴクイズ》《サンゴぬり絵》（以上、海洋学習教材 LAB to CLASS 教材）《プラスチックゴミの行方》（JEAN）などの教材展示。



●海の生きものミニ写真展

主に伊豆半島周辺で撮影された、海の写真展示



参加者の声（アンケート結果）

アンケート（感想）回収率

<午前の部> 保護者 38枚（回収率 75%）

子ども 56枚（回収率 100%）

<午後の部> 18枚（回収率 100%）

●海の生きもの KIDS ワークショップ / 子ども感想

<質問> 「海や海の生きもののことで、新しく知ったことや気づいたことをおしえてください。」

<回答> ※一部抜粋

- ・魚はみんなにつながっていること（4年生）
- ・プランクトンは太陽のひをあびて生きているとはじめて知りました（5年生）
- ・海にはいきものがいっぱいいることがわかりました（2年生）
- ・「食べる」「食べられる」の関係でどこまで続くのか知りたい。（4年生）
- ・ウニに目があるのがはじめて知りました（2年生）。
- ・サンゴがまんげつのときにたまごをうむこと。（多数）
- ・サンゴが生きていること。（2年生）
- ・サンゴが動くこと。（2年生）
- ・サンゴ礁にはあかりが大切なことを知りました（なんでも海は同じだと思っていました）。サンゴがなぜ満月の夜にたまごをうむのか知りたいです（4年生）
- ・イルカのからだが大きかった。（1年生）
- ・イルカの背びれは胸びれより前かと思っていたけど胸びれが前だと気づきました（2年生）

●海の生きもの KIDS ワークショップ / 保護者アンケート ※一部抜粋

1) 「プログラム内容」の満足度（5段階）

5（満足）	4（やや満足）	3（普通）	2（やや不満足）	1（不満足）
26名	8名	3名	1名	0名

2) 海を学ぼうスクールを、親しい友人や知人にどの程度おすすめしたいと思いますか？（10段階） 10（勧める可能性が非常に高い）～0（勧める可能性なし）

10	9	8	7	6	5	4～0
10名	6名	13名	4名	3名	2名	0名

3) 自由記述欄

- ・イルカのことだけではなく、食べ物つながりなどのこともわかりやすく伝えていただき良かったと思う。
- ・海にあまり親しみのない子でしたが、とても楽しく参加させていただきました。これを機に、海に興味を持ってくれると良いと思いました。2時間飽きずに参加している子たちを見てとてもすごいと思いました。
- ・パズルがとても楽しそうでした。海が自分たちの生活にまでつながっているというところまでふれてくださったのが良かったです。
- ・参加した子どもは海に元々特別興味を持っていたわけではなく、友達と一緒に参加してみようかなという程度だったが、かなりひきこまれて夢中になっていた。
- ・座学の時間を短時間にする集中して話を聞いて、動く時間・アクティビティがたくさんあったので子どももメリハリをつけて楽しむことができていたようです。小学生以下の子どもでも親の助けがあれば参加できるように思いました。
- ・知っているようで知らないことを楽しみながら教えてもらえた。
- ・楽しく、ふだん家庭では教えてあげられない詳しい内容がきけて満足そうでした。
- ・講師の方々が、本当に海が好きで楽しいということが伝わる話し方で、素敵でした。
- ・海の生きものが嫌いな息子がとても楽しそうに参加していて驚いた。
- ・海の生きものの知識がほとんどなく、教えてもらう気持ちで参加しました。椅子取りゲームではそのことで気後れした様子でしたが、絵を描くときには友達に教えてもらいながら楽しそうでした。
- ・子どもにとって「サンゴ」だけだとなかなか目が行かないと思いましたが、サンゴは海に生きる生き物にとって、なくてはならないものだということがわかったと思います。
- ・トータル2時間半で子どもには長いかな？と思いましたが、参加型のものばかりで、飽きずに取り組めたみたいです。講師の方もみんなに声かけをしていただいたり、テンポよく進めてくださってとても良かったです。
- ・手を動かし、身体を動かし、体験をとまなうことができとても良かったです。
- ・イルカを通じて食物連鎖までつながりを感じるという話が良かったです。
- ・イルカを作る実演が楽しかった。
- ・海に興味を持ってもらうきっかけになる。
- ・大人もとても勉強になった。

<改善点>

- ・高学年には少し物足りなかった。低学年と高学年を分けて欲しい。高学年向けの時間があると良い。
- ・低学年には時間が少し長い。
- ・もう少し、自分の意見を言えるチャンスがあれば、もっと良いと思う。
- ・(子供が発言する場など) マイク・スピーカーを使うなどしてもっとはっきりと声が聞こえた方が子ども達も集中するのでは。

●海×先生 ワークショップ／ 参加者アンケートより ※一部抜粋

- ・海教材限定ではなく、非常に広い視点で学ぶことができました。
- ・ディスカッションの時間が短く慌ただしい。内容は素晴らしいものでした。
- ・“海”について学ぶ機会かと思って参加しました。しかし“環境教育の向き合い方”について考えさせられる時間となりました。
- ・教育現場の関係者や企業の方、生物等の有識者など、さまざまな立場の人が交じり合うことで色々な考えが生まれて面白かった。
- ・（公立小中学校勤務の方） 理科の授業ですぐに食物連鎖のカードを使います。シンプルなのに色々な方法が考えら、使い方が大事だと思いました。
- ・わかりやすくあっという間でした。改めて海のことを知っていくと同時に、時流を読み今ある課題に取り組み、何かしらの行動につなげていきたいと思います。
- ・学習教室をしているので、子ども達が楽しく学ぶ教材の一つとして活用したい。できれば外に出て実体験するチャンスを作りたい。思っていたより深いお話でした。
- ・山藤先生と東郷さんの熱量がすごく、すごい！の一言です。行動すれば変わるし、新しい活動が生まれるとお話があったので、自分も一歩ずつ動いていきます。
- ・一人の生徒のオモイを受け止めどんどん行動を起こす。今にまでつながられているお話に深く感銘を受けました。海洋教育に興味のある方のみならず、多くの方に聞いてもらいたいような充実させられるお話でした。